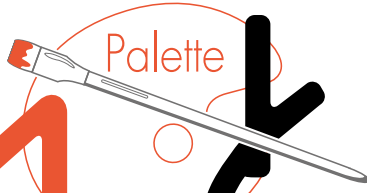


ぱれっと



7
2024 July
vol.287



JA岡山中期計画の取り組み

農を担う
米農家 小橋 久宣 さん
吉備地区……………10ページ

今月の折り込み 2024年7月号カタログショッピングチラシ ほか

J A 岡山 中期計画の取り組み

【令和5年度 実践概況報告】

当JAは、令和4年度の通常総代会で設定した「JA岡山中期計画」に基づき、同年度から令和6年度までの3カ年において、その取り組みを進めています。

中期計画では、第35回岡山県JA大会で決議された「不断の自己改革の実践」に基づき、7つの重点取り組み事項を策定しています。その取り組み結果については、年度ごとの進捗管理や実践状況を検証し、広報誌等を通じて組合員・利用者の皆さまへ情報発信することとしています。今月号では、3カ年計画の第2年度（令和5年度）の実践概況をご報告させていただきます。



1. 農畜産物の生産振興



① 米の安定多収・省力化生産技術の確立と普及・拡大および高温耐性品種の調査・研究

○米の安定多収生産に向けて、管内181ヶ所のほ場においてドローンによる水稻の葉色診断を実施しました。

・スマート農業の実践に向けて、普及拡大が進む人工衛星による画像解析技術を活用した「栽培管理支援システム」(30名・300畝)の導入に向け営農センター職員を対象に研修会を開催しました。(参加者23名)

○環境保全対策として、被覆コー

ト肥料の被膜殻流出の課題解決に向けてノンコーティング一発肥料ならびに被覆コート低減一発肥料の実証試験を行いました。ノンコーティング肥料については、成分溶出などに課題が残りました。

効果試験では、被覆コート低減一発肥料は、コスト面で課題が残るものの、平均収量(540 詰/10ア)を上回りました。

○高温耐性品種として、「つやきらり」の適応性・有効性を判断するため、生育・収量・食味の検証を行いました。

・生育について、「ヒノヒカリ」に比べて、出穂期(2〜6日程度)・成熟期(2〜7日程度)ともに早い傾向でした。

・収量について、「ヒノヒカリ」:465・6 詰/10アに対して「つやきらり」:563・6 詰/10アとなり、10ア当たり98 詰(21%増)の増収となりました。

・品質について、対照区の「ヒノヒカリ」は、高温の影響を受けての白未熟粒による品位の低下がみられましたが、「つやきらり」については影響が少なく、1等比率が高い結果(93・9%)が得られました。(出荷率14%)

れました。

・食味について、「ヒノヒカリ」「アケボノ」にこまる」の官能試験(外観・香り・味・粘り・硬さ)を実施し、「ヒノヒカリ」と同等の結果が得られました。

② 麦類の高品質生産対策

・大麦の粗タンパク含量が低い生産者に対して、施肥指導を行いました。

・グリーンファーム岡山において、小麦の粗タンパク含量が8・5%以下の生産者に対して個別指導を行う目的で、「実肥実施報告書」の提出により、粗タンパク含量の向上対策に取り組みました。

・令和6年度の「せとくらら」については、生産者5名が面積20・5 畝(前年対比170%)で栽培し、収量は約92トの見込で、取扱業者2社を通じて、「おかやまコープ」のパン用小麦としての需要が見込まれています。

③ 園芸品の生産拡大と産地の活性化

○営農振興支援事業を広報誌に掲載、ポスターの掲示、営農センター職員による声掛け等により

組合員に周知を図りました。

【新規作付拡大面積】

・営農振興支援事業生産拡大実績(3月末現在)

〈野菜〉

重点品目(キャベツ・タマネギ・夏秋なす・白菜) 7・9 畝
その他(ホウレンソウ・カボチャ・トマト・スイカ・イチゴ等) 2・4 畝

〈果樹〉

・各産地で開催の栽培講習会において振興品種への新・改植の推進を図りました。

モモ(清水白桃、おかやま夢白桃、白皇®)の新・改植面積4・3 畝(うち新植面積2・9 畝)
ブドウ(ピオーネ、シャインマスカット、オーロラブラック、紫苑)の新・改植面積7・9 畝(うち新植面積1・3 畝)

〈花卉〉

・現地見学会の開催等により新規栽培者4名(施設2名・露地2名)を確保し、16・3ア(面積拡大)のブレイラム・葉ポタン・キンギョソウを図りました。

○新規就農者の確保に向けて関係

機関との連携により、定例会議・トータルサポート事業面接会・新規就農相談会等へ積極的に参加しました。(計25回)

・行政との連携による各種事業に取り組み、新規就農者数は40名(岡山市32名、瀬戸内市3名、吉備中央町5名)となりました。

・トータルサポート事業において9組・10名の実務研修生を確保しました。

・もも農業塾(塾生:10名)、ぶどう農業塾(塾生:15名)を実施し、受講終了後、生産部会、直売所会員への加入推進を行いました。



④ 和牛繁殖経営の安定

・関係機関と連携し、「おかやま四ツ☆子牛育成マニュアル」を活用

2. 販売戦略の強化と販売体制づくり

農畜産物販売高103億円の確保(農産)

・JA岡山米の安定取引と米価アップを目指して情報収集を行うとともに実需者との結び付きを強化するための商談を行いました。(計24回)

・令和5年産うるち玄米集荷実績は、2021・513・5俵(前年

対比95%)となり、消費者直接販売の取引拡大に取り組みました。(令和5年産米:3,800・5俵 前年対比103%)

・JA岡山米の消費拡大に向けて、食味ランキング特A取得の「ぎぬむすめ」、「よこまる」やJA岡山プライベートブランド商品の「晴々ロマン」、「温羅の舞」について、農産物直売所での販促資材等を使用した消費宣伝PR販売を行いました。

・農産物直売所はなやか中央店等において消費者ニーズの高い今摺り米の販売を行いました。「きむぬすめ」、「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」等)

〈園芸〉

・主要品目(ブドウ・ナシ・イチゴ等の果実類、施設なす・レタス等野菜類)について、需要期に合わせた安定出荷販売を行うため、重点取引市場8社(関東市場3社・関西市場3社・地元市場2社)を設定し、市場との連携による安定取引と市場集約による有利販売に努めました。

【重点8社出荷販売実績】

野菜:5,731ト(出荷割合:41.7%)
1,346百万円(販売割合:58.1%)
果実:868ト(出荷割合:59.7%)
1,305百万円(販売割合:69.6%)

・需要期に合わせて重点市場へ冷蔵シャインマスカットの計画出荷を行いました。(市場出荷計:3,37ト(前年対比140%))

・販売戦略の一環として、毎月2回の産地情報ならびに市場情勢を産地、全農事務所、市場、営農センター園芸担当者から取りまとめ、情報共有を図ることで有利販売につなげました。

・園芸販売担当者会議を開催し、本所と営農センターとの販売情勢等の情報共有を図りました。(野菜7回・果実2回)

・施設なす(備南)の期間相対取引による値決め販売を行い、有利販売につなげました。(出荷量587ト、全体の34%)

・県、全農と連携し、「イチゴ」晴苺」の首都圏への出荷量を増やし、販売促進によりJA岡山®ブランドの認知度向上に努めました。



・業務用一次加工品の「清水白桃シラップ漬け」「みかん果汁」「レモン果汁」について、外部委託製造を行い、県内菓子メーカー、酒造メーカーへの販売を計画的に行いました。(清水白桃シラップ漬け:7.3ト、みかん果汁:3.3ト、レモン果汁:0.4ト)

・新商品「飲むレモンジュレ」の製造に向けて、加工用原料の安定供給を行いました。(レモン果汁:156箱)

〈直売所〉

・広報誌「ぱれっと」への掲載等により、直売所の出荷会員ならびに委託輸送会員の募集を行い、新規出荷会員で67名増、委託輸送会員で18名増となりました。

・直売所会員向けにイベント開催情報や青果物の売れ筋ランキング

グ等販売に関わる情報を、メール配信と精算書へ紙面を同封することで、店舗の品揃えの充実につなげました。

・広告配信アプリ「Shufoo! (シュフー)」を活用し、産直まつりのイベント開催告知など幅広い年齢層へのアプローチを行い、集客力向上を図りました。

・地産地消による「地域とのふれあい」、「地域の活性化」を図るためJA岡山農産物直売所「産直まつり」を開催しました。

・魅力ある直売所の店舗づくりを行うため、県外JA直売所との店舗間交流により柑橘類等の特産物の販売を行いました。

3. 営農指導体制の充実

TAC指導体制の充実

・毎月TACリーダー会議を開催し、本所と営農センターとの営農指導にかかる情報共有と連携を図りました。

・同会議内で訪問活動内容、担い手情報、各種試験の取り組み結果、課題実践の進捗状況等の報

7. 正・准組合員とのメンバースhipの強化

① 女性部・フレッシュミズの活動紹介や加入促進

・地域内交流会を通じて、伝統食の継承と食品ロス削減について情報を共有し、女性部内の交流を図ることで、女性部の活性化に取り組みました。女性部20支部:2,244名(うちフレッシュミズ5支部:57名)

② 広報誌「ぱれっと」およびホームページなどによるJAくらしの活動の紹介

・毎月編集検討会議を実施し、誌面の充実を図りました。

・「笑味ちゃん天気予報」に出演いただいた生産者や農産物を使用した料理のレシピ動画、女性部支部活動の様子等を91件投稿しました。

③ 女性参画に対する理解促進活動の実施

・「男女共同参画のつどい in 岡山」を開催し、男女共同参画についての理解を深め意識の醸成と定着を図りました。

5. 総合事業を通じた生活インフラ(生活基盤)機能の発揮

① 組合員健康診断の実施

・巡回人間ドックや動脈硬化症健康診断を中心とした組合員健康診断の実施に当たり、支所等でポスター掲示によって受診者を募り、各地区において健診を実施することで、組合員の疾病の早期発見等の健康増進活動に取り組みました。(29カ所:918名受診)

② ミニデイサービス・サロン・みんなのお家の開催

・「JA岡山助け合いの会かがやき」との連携により各地域でミニデイ・サロン等を開催し、「JA健

告を行い、情報共有を図りました。(訪問件数11,273件・前年対比103%)

・全農と連携し、肥料・農薬メーカーとの同行訪問(商品紹介)を行い、担い手農家等への訪問強化を図りました。(323件・前年対比122%)

・TAC指導員の取り組み実践課題(全11課題)の実績報告会を開催し、各営農センターの課題実践に対する取り組み内容について情報共有を図りました。

・営農指導の強化のため、本所指導課職員(3名)による営農センターの新任TAC指導員ならびに園芸担当者との同行訪問により実践的な指導技術の習得に努めました。

・営農センターの新任職員向けに営農基礎知識の研修を行いました。(計6回:延べ47名参加)

4. 食農教育活動を通じた地域コミュニティの活性化

農業体験学習・親子料理教室の開催

・食農教育イベント「家族でチャレンジ!デイキャンプ」を開催しました。(24名参加:調理体験、野菜栽培体験、食農クイズ等)

・女性部との連携による「ちやくりんフェスタ」を開催しました。(14会場:539名参加:工作、野菜栽培、料理等)

6. 支所等を拠点とした「JAくらしの活動」の実践

地域独自イベントの開催、支所ふれあい旅行の実施

・地域独自イベントについては次年度に向け検討することとしました。女性部との連携による「ちやくりんフェスタ」の開催や支所・営農センターだよりの発行など、年間を通じてくらしの活動の実践に取り組みました。

・旅行需要の回復を受け、年金友の会親睦旅行や女性部活動などを中心に企画旅行を実施しました。(34支所:61件)



環境にいい、安全・安心な米を作り 農業を楽しみたい。

小橋 久宣さん 吉備地区：米農家

「こぼし ひさのぶ」
昭和35年生まれ。妻・長男・次男・長女の5人家族。趣味は、散歩・旅行・愛猫のライくんとミナちゃんの手相手。座右の銘は「プラス思考でいれば何事もうまくいく」。



新車は気持ちいいです

4月25日、吉備地区の小橋久宣さんにお話を伺いました。

農地をきれいに したかった

―就農したきっかけは

仕事をしながら休みの日に、農業をする兼業農家でした。耕作放棄地がたくさんあり、ヨシや木が生えた田んぼをきれいにしたいと思っていた。整備をして稲を作付けして見ると、地域がきれいになるのを見ると楽しい気持ちになりました。さらに、農地を借りて作付け面

積を増やして56歳の頃、耕作地が5畝になった時に、仕事との両立が難しくなり仕事を辞めて専業農家になりました。

―専業農家になってから

高齢で離農する人が多く請負耕作の依頼も多くなり、新たにトラクターやコンバイン等の農機具を購入して、作業効率を上げるようにしました。新しい機械だと気分も上がります。

今は、24畝の農地を管理するようになり、今年は「レンゲ朝日」「自然栽培朝日」「アケボノ」「きぬむすめ」と黒大豆を作付けする予定です。

―苦労する点

吉備地区は、面積の小さな田んぼが多く、耕作している農地が点在しているため、作業効率が悪く管理が大変ですが、今は、次男が手伝ってくれるのでとても助かっています。また、農繁期には、家族全員で協力して作業をしています。

―楽しいこと・やりがい

レンゲを使った水稲栽培や、自然栽培（無肥料・無農薬）に取り組んでいます。レンゲは、春になると田んぼ二面にきれいな花を咲かせます。自然栽培では、トンボやクモなどの生物が田んぼにたくさん現れます。様々な生き物と、自然がバランスを保つて関わり合う「生物多様性」。そういった環境を見たり、感じたりすることが楽しいです。

楽しむ気持ちが一番

―今後の抱負は

農作業は、大変で苦労することもあります。焦らず自分のペースで、いつも前向きに考えて、楽しい気持ちでできる農業をめざしていきたいと思っています。

また、地域の農家やJAの職員の方とコミュニケーションを取って、耕作放棄地を増やさないようにし、環境にいい安全・安心なおいしいお米を作って、地域の農業・農地を守っていききたいと思います。

聞き手：JA岡山広報担当



愛猫ライくん



レンゲを使って稲を元気に育てる

野菜(ブロッコリー)

ブロッコリーは
ビタミンCが
たっぷりです



営農部指導課
祇園 将人

7月になると梅雨が明けていよいよ夏本番になります。気温の高い日が続くと思うので、熱中症等にならないように高温期を避けた朝夕に農作業を行います。

ブロッコリーについて

原産地はヨーロッパ西南部で、キャベツと同じ仲間です。ゆで上げると緑が鮮やかで、弁当の色どりとしても使いやすい野菜です。春まき夏まきがありますが、ここでは夏まきについて紹介します。

播種・育苗

購入苗を植える方もいると思いますが播種・育苗についても説明します。品種により播種時期は7月末〜8月末までが適期となります。播種は育苗トレイの128穴や発泡スチロールの72穴等を使用します。

花き(ネリネ)

輝く花卉
「ダイヤモンド
リリー」



営農部指導課
中川 雄一

●南アフリカ原産のネリネ
秋から冬に豪華で日保ちのよい花を咲かせる南アフリカ原産のネリネ、大まかに春植え種と夏植え種に分かれます。代表的な夏植え種のサルニエンス系の品種はつややかな花卉から「ダイヤモンドリリー」とも呼ばれます。

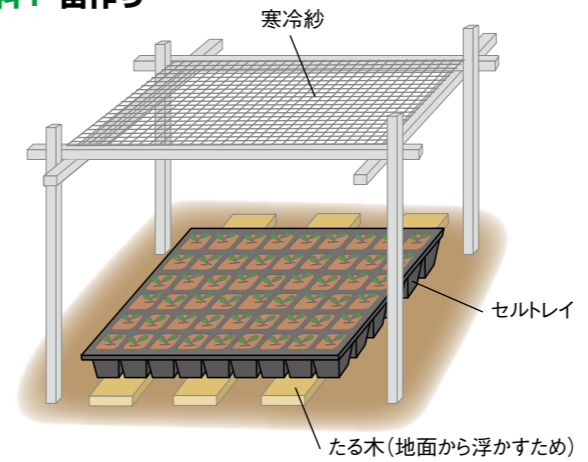
同じヒガンバナ科のリコリスと似ていますが、自生地の環境の違いから栽培環境も大きく異なります。植え付け後に葉を伸ばし、花を咲かせた後、冬には葉が枯れて休眠するネリネは、休眠中の春が植え付け時期になりますから春植え種です。夏植え種は、高温の夏が休眠期で葉が枯れ、動き出す前の8月下旬ごろから定植します。その後花茎を伸ばして開花、葉が伸びて越冬、気温が上昇する5月ごろに葉が枯れます。花言葉は「輝き」「華やか」「幸せな思い出」などです。

●生育特性など(夏植え種を中心に特性や栽培を解説します。)
どの品種も過湿を嫌い、中性から弱アルカリ性の排水のよい土壌を好むこと、耐寒性があまり強くないこと(特に夏植え種はより弱い)などから、日本の気象で地植えは難しいと思います。肥料もあまり必要としません。

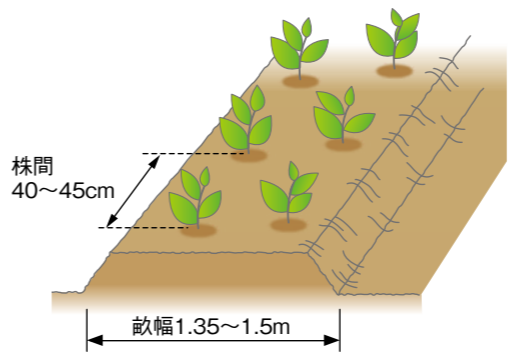
培土は「与作」等を使い、トレイにすり切り一杯入れて、軽く地面に2回程トレイを叩いて培土を落ち着かせ、灌水をゆっくりに十分に行います(底の穴からポタポタ水が落ちるまで)。1穴に1粒種をまき、薄く覆土をします。その後軽く灌水し、乾燥防止に新聞紙で覆います。

2〜3日程度で発芽するので、それまでは納屋等の風通しのよい日陰に置き、全体の半分程度芽が出たら新聞を取り除きます。その後は苗が高温障害を受けないように夕方か曇りの日に日光が当たるところに出し、暑い時期なのでトレイを直接地面に置かずたる木等の上に置き、上は寒冷紗で覆います(資料1)。灌水は午前中の涼しい時間帯に行い、夕方には表面がやや乾く程度に灌水します。

資料1 苗作り

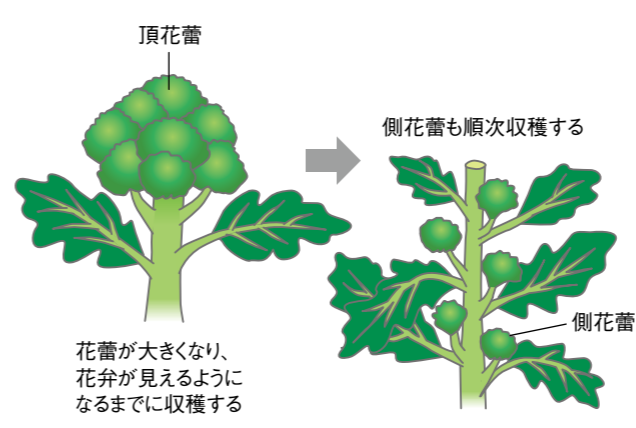


資料2 植え付け



●植え付け
播種した苗が本葉3〜4枚のところ(播種後約30日)が植え付け適期です。軽く苗を引っ張ると根鉢ごと抜けるのを確認し、植えていきます。株間は約40〜45cmで植え、定植後にしっかり灌水します(資料2)。苗が活着するまでは定期的に灌水を行ってください。

資料3 収穫



●収穫
花蕾が10cm以上になると収穫時期です。蕾が開かないうちに収穫します。中生・晩生品種では側花蕾も収穫できる品種もあります。頂花蕾収穫後に小さな側花蕾ができるので順次収穫しましょう(資料3)。

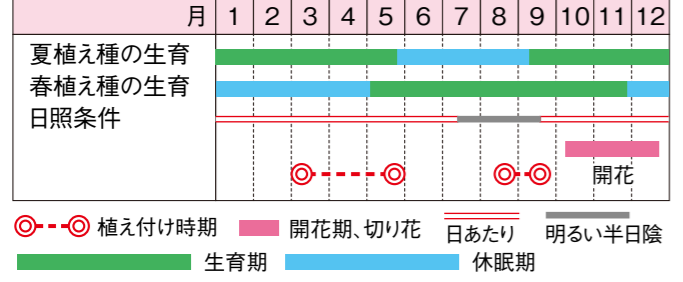
鉢植えにすれば、秋〜冬、春は日光によくあて、梅雨明け後の盛夏期は明るい半日陰へと移動も簡単です。営利生産では排水のよいハウス栽培で、土壌水分や日照、温度を時期に応じて調整します。多様な品種があつて、開花期も色々なので、たくさん集めると長い期間花を楽しめます。図では秋から初冬開花になっていますが、品種や環境によってはもっと遅く開花することもあるようです(資料4)。

栽培

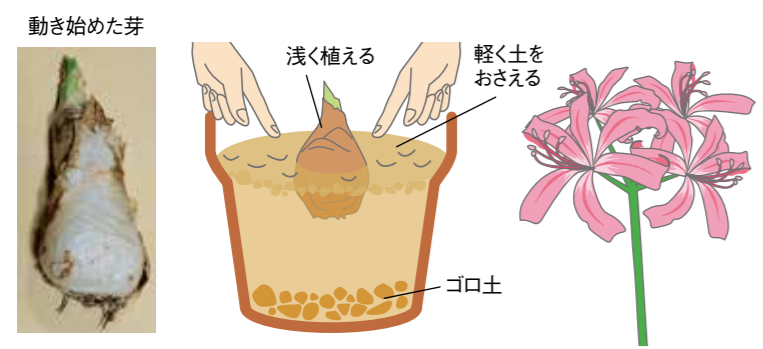
●植え付け準備と植え付け(鉢植え)
夏植え種の植え付け時期は休眠が終わる8月下旬ごろからになります(春植え種は3〜5月)。

用土は通気性・排水性がよいことが欠かせません。例えば小粒赤玉土に腐葉土を2〜3割混ぜたものに酸度調整のため苦土石灰などを少量よく攪拌して1〜2週間なじませたもの等を使います。有機質を混ぜて水保ちがよくならずると腐りやすいので、赤玉土だけの栽培を勧める資料もあるくらいです。

資料4 ネリネの生育と植え付け、開花



資料5 球根(休眠期末で芽が動き始め)と鉢への植えつけ、ネリネの花



資料6 花き類登録のある薬剤の例

区分	薬剤名	適用(対象病害虫)
殺菌剤	トップジンM水和剤	菌核病(1500倍 散布)
	リゾレックス水和剤	白絹病(500~1000倍 株元灌注)
	モンカットフロアブル40	白絹病(1000~2000倍 株元散布)
殺虫剤	ダニサラバフロアブル	ハダニ類(1000倍 散布)

分から2〜3くらい土から出るように置きます。球根がひっくり返らないように周囲を軽く押さえておきます(資料5)。この後は水やりしません。そして2週間くらいそのまま涼しい直射光があたらないところに置いて、その後土が乾いたら、球根を濡らさないように軽く水をやりませう。

●その後の管理
やがて涼しくなるとともに、土が乾いたら晴れた日の午前中に、少量灌水して根の伸びを促します。蕾が出始めたら丈夫に育つように、日あたりのよいところに移動し、茎の伸長とともに徐々に水を増やします。花が2〜3輪咲いてからは、日あたりの時間を半日くらいにした方が花の日保ちがよくくなります。

●追肥・灌水
追肥は植え付け2〜3週間後、その3週間後に追肥を行います。1回あたりJA岡山専用有機肥料等を10平方センチあたり約300gを施用します。一度目の追肥時には除草を兼ねて軽く中耕します。

果樹 (ブドウ・カンキツ類・モモ)

環境の変化を軽減するようにしましょう



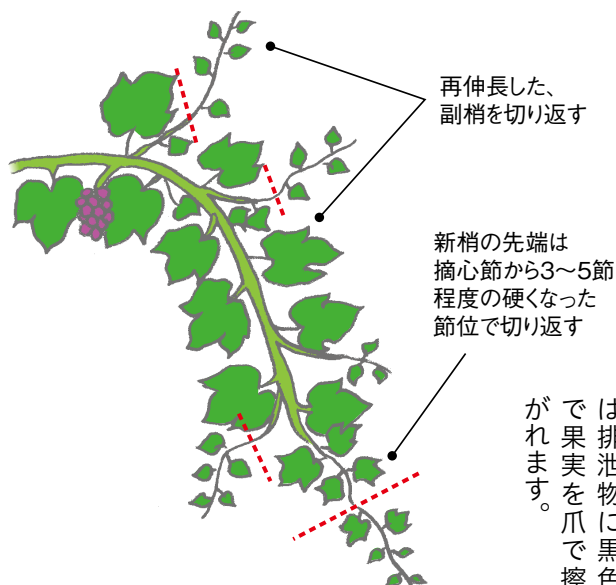
営農部指導課 武田 祐一

● **ブドウの管理**
 ・ **結果量調節と枝管理について**
 簡易被覆栽培(トンネル栽培)のピーナーは今月中旬から果粒軟化期(果粒をつまんでみると柔らかくなる時期)を迎え、着色が始まります。この時期から果粒へ急速に糖分が蓄積されますが、枝の本数や樹勢に対して着果量が多すぎると糖度が上がらないことや着色が進まないなど悪影響が出てきます。

● **ブドウの管理**
 ・ **結果量調節と枝管理について**
 簡易被覆栽培(トンネル栽培)のピーナーは今月中旬から果粒軟化期(果粒をつまんでみると柔らかくなる時期)を迎え、着色が始まります。この時期から果粒へ急速に糖分が蓄積されますが、枝の本数や樹勢に対して着果量が多すぎると糖度が上がらないことや着色が進まないなど悪影響が出てきます。

資料7 果粒軟化直前の枝葉管理例

新梢の先端から1本の副梢を伸ばした場合

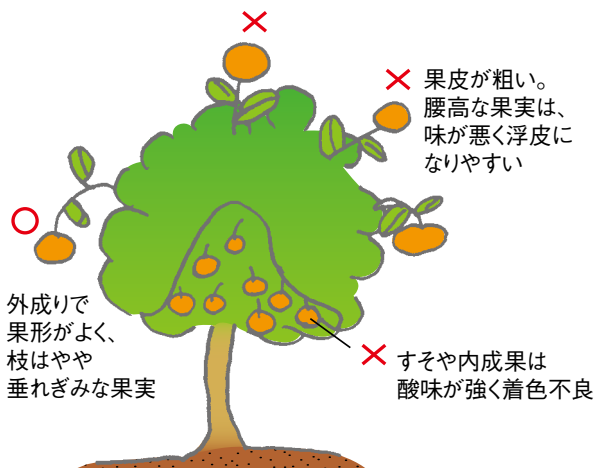


● **カンキツ類の摘果**
 昨年、着果過多であったところでは、今年の着果は悪いと思います。ふつうは7月上旬に生理落果が終わった後から8月上旬までに荒摘果、8月中旬から9月上旬に仕上げ摘果、9月中旬から10月上旬に樹上選果合わせて3回摘果作業を行います。荒摘果では、傷果や小玉果、変形果を摘果し、地際のすそ成果や樹の内側の方に着果している内成果も糖度が上がりにくく酸が抜けにくいので、摘果しましょう(資料8)。病害虫防除では、ハダニ類・サビダニ類、カイガラムシ類、黒点病を予防します。果実の着色開始ごろに果皮が黒くなるのは、サビダニの被害です(爪で擦っても剥がれない)。ミカンにはハダニ類とサビダニが両方発生しますので、両方に効く農薬を使用しましょう。カイガラムシ類は排泄物に黒色のススが付着するので果実を爪で擦ると黒色のススが剥がれます。

資料8 温州ミカンの荒摘果

×は摘果

果梗が太く天を向いた果実



● **モモの収穫**
 極早生品種のはなよめは6月上旬ごろ、早生品種は6月下旬ごろから順次収穫が始まります。モモの成熟は、日あたりの良好なところから始まるので、上の方から樹冠内部にかけて順次収穫していきましょう。個々の果実の収穫適期幅は1〜2日程度しかないので、毎日若しくは1日おきに収穫するのが望ましいです。収穫は果実温度の低い早朝(9時ごろまで)に収穫を行います。収穫は果皮色の緑色がほとんど抜けて淡黄色、淡緑色となったところで過熟軟化していない時期を狙って収穫します。市場や贈答用で収穫する場合は熟れごろより2〜3日程度早めに収穫します。収穫後は、持ち帰った果実を風通しのよい涼しい日陰で速やかに出荷調整します。

肉だんごのミルクスープ



作り方

- ①ボウルにAを入れてよく混ぜ、10等分して丸める。
- ②ズッキーニとナスは7~8mm厚さの半月形に切る。
- ③フライパンにオリーブ油小さじ1を熱し、②を入れて塩、こしょうし、軽く炒めたら取り出す。
- ④同じフライパンにオリーブ油小さじ1を足し、①を入れて転がしながら表面に焼き色がつくまで焼く。Bを加えて2~3分間煮る。
- ⑤③を戻し入れ、牛乳を加えて煮立てないようにして温め、塩、こしょう（分量外）で味を調える。
- ⑥ポーチドエッグを作る。鍋にたっぷりの湯を沸かして酢を入れ（湯1ℓに酢大さじ1が目安）、卵を割り入れる。ゆるやかに沸騰している状態の火加減でアクをすくいながら3~4分間ゆで、冷水にとって形を整える。
- ⑦器に盛り、パセリをふって⑥を添える。

材料 (2人分)

- A
- 牛ひき肉 150g
 - たまねぎ(みじん切り) 80g
 - 卵 1コ
 - 酒 大さじ1/2
 - かたくり粉 大さじ1/2
 - しょうゆ 小さじ1/2
 - 塩 小さじ1/4
 - こしょう 少々
 - ズッキーニ 1本
 - ナス 1本
 - オリーブ油 小さじ2
- B
- 水 100ml
 - トマトの水煮(缶詰・トマトはつぶす)
..... 1/2缶
 - 赤とうがらし(半分にちぎり種を除く)
..... 1~2本
 - 牛乳 180ml
 - 塩 小さじ1/2
 - こしょう 少々
- ポーチドエッグ
- 卵 2コ
 - 酢 適宜
 - パセリ(みじん切り) 適量

出典 ●「ミルクウェブサイト」[ミルクレシピ]



産地直送で モモが購入できる

今回のあぐるグラムでは、農産物直売所「はなやか一宮店」を紹介いたします。「はなやか一宮店」はICから車で5分の位置にありとても交通の便が良い立地です。店内に入ると、明るく優しい従業員が出迎えてくれます。

「はなやか一宮店」は選果場が近くにあるため、産地直送で新鮮なモモが手に入り、県内外から買い求めに来られます。早生品種から晩生品種まで10種類以上のモモが、移り変わりながら店頭に並びます。そのほかにも地区の生産者が丹精込めて育てた野菜や花、加工品なども多数取り揃えてあります。この機会にぜひ皆さまも「はなやか一宮店」にお立ち寄りください。



編集担当 辻内 咲綯

各種媒体で情報発信



オンラインショップ
はなやか
オンライン



Instagram

